



衛星データ利用に関する取組例

令和2年12月
文部科学省

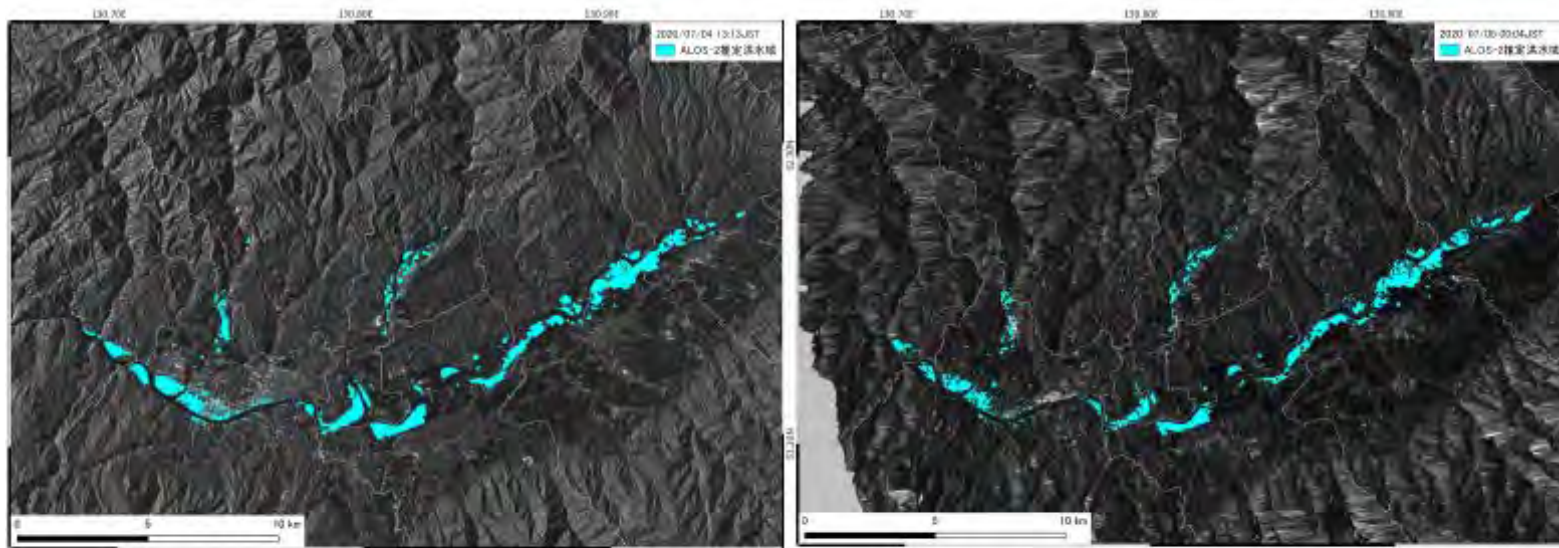
自然災害等における「だいち2号」による緊急観測

地震・津波・火山噴火・台風・集中豪雨等の自然災害の発生時に、防災関係機関等からの要請に基づき、JAXAの「**だいち2号**」(ALOS-2)による**緊急観測を実施**し、自然災害による**被害状況を把握**。

最近の衛星観測の実利用例

令和2年7月の九州豪雨の災害把握

九州地方の河川の氾濫に伴う浸水等による甚大な被害が発生した今年7月の九州豪雨において、国交省や農水省からの要請に基づき、ALOS-2による10回の**緊急観測を実施**し、**観測データから浸水域の抽出**等を行い、**画像を提供し、ヘリによる調査箇所や飛行ルート**の選定等に活用。



※水色部分が推定浸水域

熊本県人吉市周辺のALOS-2観測画像による浸水域推定結果（左：7/4、右：7/5）

モーリシャス沿岸の油流出における「だいち2号」による協力

- モーリシャス共和国沿岸で座礁した貨物船「WAKASHIO」による油流出事故※において、日本の国際緊急援助隊・専門家チームが油防除作業、環境分野の支援活動等を実施。
※2020年7月26日に座礁、8月6日に燃料油が流出。
- この活動への協力のため、JAXAは、海上保安庁からの要請に基づき、「だいち2号」によるモーリシャス沖の緊急観測を実施し、国際緊急援助隊・専門家チーム（一次隊）に参加している海上保安庁に観測画像を提供。

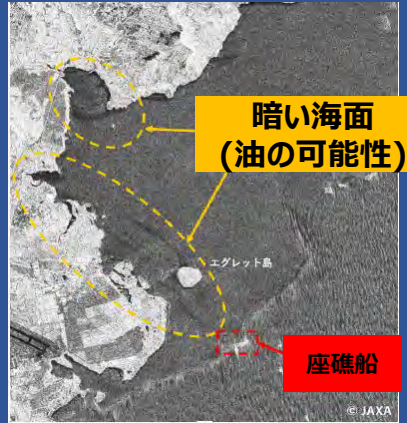
「だいち2号」による観測状況

- 2020年8月10日から27日にかけて11回の緊急観測を実施し、海上保安庁を通じ、12日から国際緊急援助隊・専門家チームや現地政府に観測画像を提供。
- その後も、週1回程度で10月11日まで観測を実施。

<ALOS-2のレーダ観測画像>



8月14日（現地時間）



8月17日（現地時間）

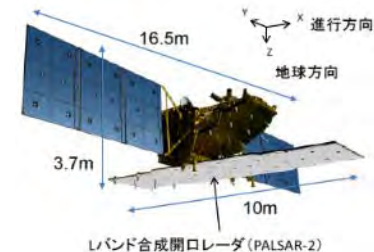
（参考）光学画像



座礁船から島の方向に油が流出。
8月17日の画像では14日に比べ、
油の流出範囲が狭くなっている。

※油がなくても風が弱く波が立っていないときなども画像が暗くなるため、油の有無の区別が難しい場合がある。

陸域観測技術衛星2号「だいち2号」 (ALOS-2)



レバンド合成開口レーダ (PALSAR-2)

- 打上げ日：2014年5月24日
- 観測機器：レバンド合成開口レーダ
 - ・特 長：夜間や悪天候でも地表の様子を観測可能
 - ・観測幅：25km～490km
 - ・分解能：3m～100m

